

代々伝わる日本刀を背景に語る山田事務局長



山田 弘化四年  
——中身は何でしょう。か。

■設立から約一年にして、刀剣関連予算の大幅増額、「平成の名刀・名工展」共同開催の実現、和鉄活用の提案など、目覚ましい活動を見せている同議員連。発案者の山田宏参議院議員を訪ね、その真意を伺った。

——こちらに半太刀拵が架かっていますが、山田先生のコレクションですか。  
山田 私に家に伝わっていたものの一振です。生家は旧周防国(山口県)の大野郡(現・田布施町)という所で、代々毛利家の支藩の馬廻

役(殿様の近辺警護職)を務めていました。先祖の吉田甚左衛門は第一次長州征伐の責任者の一人で、遠島の処分を受けています。そんなわけで、刀や槍や弓矢などが伝わっていたのですが、明治以降次第に散逸し、今はこれだけです。

の青龍軒盛俊です。岩国の刀匠ですから、いわゆる郷土刀ですね。  
——先生が発意された「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」設立の経緯を伺います。

山田 刀にはもともと関心があり、国会に戻ってきてから、何かお役に立てることはないかと考えました。かつては日刀保会長を務められた山中貞則・橋本龍太郎両先生をはじめ、衆参両院に日本刀に精通した方々がおられたが、今はほとんどおられないと思います。日本刀はわが国美術の最たるものでありながら、刀匠たちは厳しい状況に置かれ、タタラは復活したとはいえず、生産量も限られる。刀剣や和鉄の文化再興は喫緊の課題だと、中心になってくださる方を探しました。まず、タタラの本場である島根県が地元の細田博之先生・竹下巨先生にお願いし、竹下先生から「甘利明先生

は刀装具の収集家だ」とのお話を聞き、このお三方に共同代表になっていただきました。加盟する議員は今では三十四名になっています。  
——昨年八月、先生方が林芳正文部科学大臣(当時)に要望書を提出されました。林大臣は、「いろいろな議論が要望に来るが、こんなに重いメンバーは初めてだ」とおっしゃられたそうですが、早速、今年度予算の大幅な増額となって成果が現れています。

山田 国のために働こうという先生方ですから。前年の予算六九三万円に対して五〇七五万円に積み上げることができました。例えば日刀保たたら振興助成金は二〇〇万円増額になりましたが、これは今年限りではないかと心配する向きもありました。そうではなく、これをベイスに、次年度以後も必要なものに対してはしるべき措置を講じていくつもりです。

——この一月には名古屋市の河村たかし市長を訪ね、名古屋城天守閣の木造再建に「和鉄による和釘の活用」を要望されました。従来、和鉄を日本刀以外の用途に供するという考えは、業界周辺にありませんでした。  
山田 いい玉鋼がなくては名刀は生まれませんし、いい玉鋼を得るには多くの操業が必要である。昔は農具や刃物や建築金物といった用途が裾野にあって、成り立っていた。ところが、たつきん作っても今は用途がなくなり、そこで、木造への気運が高まりつつある城や社寺の再建に、洋鉄ではなく、和鉄製の和釘を使ってほしいと提案しているわけです。実現すれば、玉鋼の品質向上につながり、刀匠の生活支援にもなり、後継者の育成にもつながっていくのではな

いでしょうか。  
——何千本、何万本の和釘を生産するには、従来の技術だけでは難しいかもしれません。今度は刀匠たちの工夫と努力が問われるところです。  
山田 容易ではないでしょうが、千年を経ても威容を誇る法隆寺や仏像のように、鉄が木を生かす善循環が可能になります。ぜひ実現させたいですね。  
——日刀保・刀文協・刀匠会の三団体が共催する「平成の名刀・名工展」は一時、暗礁に乗り上げたかと思われましたが、先生方のご支援で開催にこぎ着けることができました。

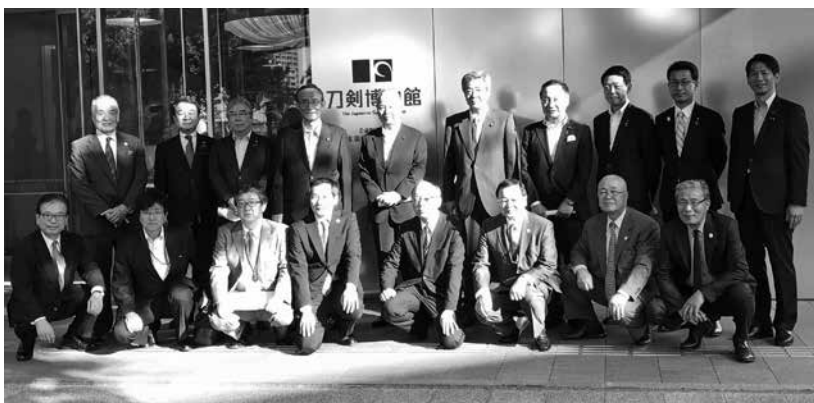
山田 まずは三団体が協力して開催することが大事なんです。平成を締めくくり、これからもがんばっていきましょうという趣旨です。ですから、貢献者の顕彰であり、富士山方式ではなく八ヶ岳方式で、いくつもの賞を出し

# わが国の良き伝統と文化を育てる 「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」山田事務局長に聞く



NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

2019.5.15 No.47  
発行人 清水 儀孝  
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会  
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10  
新宿スカイプラザ1302  
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089  
http://www.zentosho.com/  
第47号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄  
伊波 賢一 大平 岳子 大平 将広 木村 義治  
嶋田 伸夫 清水 儀孝 生野 正 瀬下 明  
土子 民夫 網取 譲一 土肥 富康 服部 暁治  
松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏  
編集顧問/深海 信彦



刀剣博物館視察に訪れた議連の皆さんと日刀保幹部(平成30年6月4日)

**刀剣 高吉**  
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!  
連絡先 090-8845-2222  
代表者 高島吉童  
東京都北区滝野川7-16-6  
TEL 03-5394-1118  
FAX 03-5394-1116  
[www.premi.co.jp](http://www.premi.co.jp)

刀剣・書画・骨董  
**和敬堂**  
土肥豊久・土肥富康  
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16  
TEL 0258-33-8510  
FAX 0258-33-8511  
<http://wakeidou.com/>

美術刀剣・刀装小道具商  
**やしま**  
齋藤雅稔・隆久・隆洋  
刀装小道具通信販売目録「やしま」  
年間10回位発行予定  
購読料10回 2,000円(郵便切手可)  
〒202-0022 西東京市柳沢6-8-50  
TEL 042-463-5310  
FAX 042-463-7955

刀剣古美術  
三峯美術店  
**町田久雄**  
埼玉県秩父市野坂町一十六-二  
西武秩父駅連絡通路町久ビル内  
TEL 0494-133-3067

大阪刀剣会  
**吉井唯夫**  
美術刀剣、小道具、武具類の  
売買、加工及び御相談承ります  
大阪市中央区日本橋二-7-1  
TEL 06-6631-2210  
FAX 06-6644-5464

↑次ページに続く



刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟

Table with 4 columns: 議連役職, 氏名, 選挙区. Lists members of the Diet League for the preservation and promotion of sword and iron culture.

NEWS & TOPICS

日刀保へ名刀・名品の寄贈相次ぐ

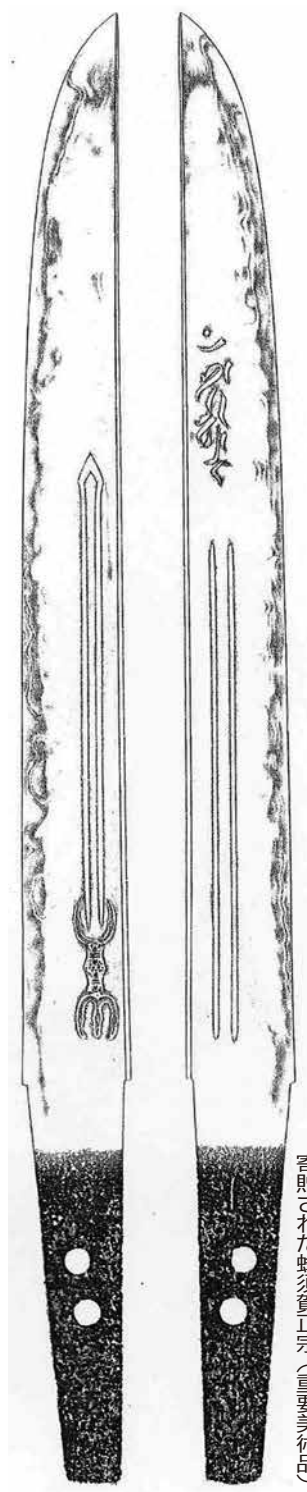
公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長、以下「日刀保」)に付属する刀剣博物館には、国宝・重要文化財などの名刀・名品が多数、所蔵・寄託されています。

「龍門延吉(国宝)や、十五代将軍徳川慶喜の命を受け、西郷隆盛と勝海舟の会談を仲介した山岡鉄舟がその功績をたたえられ、徳川宗家十六代家達より拝領した刀、名物「武蔵正宗」(重要美術品)も所蔵されています。

この度、当組合では新たな事業として、刀剣商等に対する「刀剣評価鑑定士」認定事業を開始しました。評価鑑定は当組合の専門分野でもあり、多くの個人・団体等からの実績もあって、日刀保からも従来からしばしば依頼を頂いています。

「日刀保は特定公益増進法人(文化・教育などの公益の増進に著しく寄与する特定の法人)に認定されていますので、同法人への個人または法人からの一定の要件を満たす寄附は、税制上の優遇措置が適用されます。

近年では刀剣社会と一般社会の距離が縮まり、今後は一層その傾向が高まる中で、私財を公益のために役立てようという方が増えることが期待されます。(嶋田伸夫)



寄贈された蜂須賀正宗(重要美術品)

でもらいました。一部に人間国宝の予備審査かという声もありましたが、それは重要無形文化財保持者の認定制度にも反し、すし、全く違います。今回の催しが全員一致で気持ち良く開催でき、機が熟したら、各方面の意見を聞いて合意したものを基準としてコンクールを実現したい、と考えています。

期実現を目指します。シンボルとも言うべき刀匠の人間国宝がこの二十年以上も誕生していない現状は実に遺憾です。もう一つは、日本刀のブランド化。似て非なる中国産が世界に広がっていることに危機を感じます。その対策には年間二十四振の製作制限を見直し、輸出品として日本刀をアピールすることも必要でしょう。

うに、タタラでできた和鉄の用途を広げていくことです。これらに、なるべく早く具体的なメドをつけていきます。本日はお忙しい中、ありがとうございました。(嶋田伸夫)

Advertisement for 'Koban' (日本刀) featuring contact information for a shop and a list of names.

組合こよみ(平成31年3~4月)

- 3月7日 清水理事長・嶋田専務理事が「刀剣評価鑑定士」認定試験問題集監修依頼のため公益財団法人日本美術刀剣保存協会を訪問
16日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第47号編集委員会を開催(企画)。



認定試験に取り組む組合員の皆さん

全国刀剣商業協同組合(清水儀孝理事長)は四月十七日、東京美術倶楽部を会場に第一回「刀剣評価鑑定士」認定試験を実施した。試験終了後、六名の試験委員が直ちに採点し、これを基に認定審査を行った。

- 赤荻 稔 朝倉忠史 飯田慶久
磯部 滋夫 大西康一 大林幹夫
大平 岳子 神崎公男 草分一雄
熊倉 勇 近藤昌敏 生野正
清水 敏行 須藤敦成 瀬下明
滝沢 新一 田澤 二郎 網取讓一
苦野 敏史 土肥富康 中永善之
中村 榮次 西垣皓司 橋本建一郎
平子 誠之 深海信彦 藤田一男
松原 正勝 松本義行 冥賀吉也
三浦 優子 水野光幸 御園生敏明
持田 具宏 森野幸男 保野栄三
山田 春雄 横田俊宏 吉井唯夫
渡辺 行輝



刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

# ある刀屋の履歴

飯田慶久  
(飯田高遠堂)

## 第二回 九鬼正宗

本紙編集委員でもある嶋田伸夫専務理事から、過去に扱ってきた名刀や思い深い刀剣についてのエピソードを文章にしてみようという話があった。この五月の組合役員改選の際、再任は辞退し上げるつもりでおり、ちょうど新元号に変わることもあり、わが刀屋人生を振り返る一つの機会かもしれない。そう思っ

て承ることにしたので、これから綴々書き連ねていくことにする。私の扱った刀の中で一番の名刀は、国宝の名物九鬼正宗だろう。九鬼水軍を率いた九鬼大隅守嘉隆の子守隆の所持した短刀で、後に徳川家康に献上され紀州頼宣へ移り、その後、伊予西条松平家に伝来した。

今から二十五年前の平成六年初春、岡山の株式会社林原の社長秘書が来店された。「社長が飯田さんにお目にかかりたいので、岡山までご足労願えないか」とのことだった。

林原と言えば、当時、米国の愛刀家コンプトン氏のコレクションを購入したり、刀剣研究室を設立したりして、斯界では注目の企業だった。私は直ちに了解し、岡山まで出向くことにした。

## 「新作日本刀証明証」の発行について

公益財団法人日本刀文化振興協会

- 概要
  - 現在活躍中の作家(刀工)の方の刀について、真正であることの「新作日本刀証明証」(以下、証明証)を発行します。
  - 証明証を発行するに当たり、対象となる作家様には当協会に作家登録をお願いします(1万円+消費税、ただし1回のみ)。作家様と当協会とで証明証発行に係る契約を結んだ後、証明証発行の手続きを進めます。問い合わせを頂いた段階で登録がなくとも、順次登録をお願いいたします。
  - 当協会にて、対象となる刀の各種データ測定を行い、証明証を作成した後、特製のハードカバーにお入れして新作日本刀証明証をお渡しします。
  - 証明証発行に際し、所定の発行料を頂戴します(3万円+消費税)。
  - 外国の方でもわかるよう証明証は日本語・英語の両方で表記します。

■証明証のメリット  
新作刀については、作家(刀工)自ら署名を行い自作の真正の刀であることを証明しますので、安心してお手元に“本物”の刀を入手することができます。また、他への譲渡の際も、この証明証を付帯することにより、次の所有者に対し信用と安心をつけてお譲りすることができます。残念ながら昨今出回っている現代作家の“偽物”ともハッキリと一線を画すことができ、将来にわたって安心です。また既製の刀についても作家(刀工)自身が自分の作品であることを確認しますので、上記同様の信用と安心を付けることができます(作家自身が確認に応じた作品のみ)。

■証明証発行までの流れ  
①既にお手元に現代作家の刀をお持ちの場合(主に愛刀家の皆さま、刀剣商の皆さま)  
お客様から当協会に証明証発行依頼の連絡を頂く(電話・ファックス・メール等) → 刀文協よりお客様へ登録作家の有無の確認連絡を入れます。次に、作家様にその確認をし、了承が得られましたら証明証発行手続きのため「刀身」を、どこにどのように送るか(送付もしくは持参等)ご連絡します。→「刀身」をお預かりして、通常約3週間以内で証明証を発行し、お手元に送付します。  
②作家様(刀工)が、ご自身の刀をお持ちの場合(刀工の皆さま)  
原則として当協会事務局に対象となる作品(刀)を送付いただくか、持参いただき、お預かりします。→それから、協会が責任を持って各種測定を行い、データを取得し証明証原票を作成します。→証明証原票を基に証明証を作成します。→その証明証原票ならびに証明証に作家様ご自身で署名・押印を頂きます。→以上を基に、割り印押印など各種作業を行い正式な証明証を発行した後、作家様ご自身にお渡しします。

■新作日本刀証明証を発行する意義  
①刀剣商の皆さまにとって  
新作日本刀証明証を付けて販売することにより、その刀への信頼性が確定します。また売買の際も、海外および国内の偽物とハッキリと一線を画すことができ、最も重要な刀剣商の皆さまの信用を落とすことなくお客様のお取引ができるのではないのでしょうか。  
②愛刀家の皆さまにとって  
現代刀を持つ上で非常に重要になるのが、その刀が真正なものか否か。決して安価ではない刀に対して“偽物でない本物”である証明証があるということは、今後、その刀を持ち続ける上でも、あるいは他への譲渡を考える上でも非常に重要です。そうでなくとも、本物を所有する喜びと安心感を感じて愛刀家にとって大切な点なのではないのでしょうか。  
③作家(刀工)の皆さまにとって  
精魂込めてご自身で作られた作品が、公益財団法人に記録として残ることになりますので、ご自身の手から離れた作品であっても後世にきちんと伝えていくことができます。古刀をはじめ数百年にわたって現存している日本刀の歴史を考えると、今から記録を残していくことは公益財団法人として大変意義深いことだと考えております。また残念ながらご自身の手から離れた作品であっても後世にきちんと伝えていくことは、ご自身の信用を落とすことなく安心して活動を続けることができるのではないのでしょうか。

「名刀を集めるとは、具体的にどんな刀ですかと問われたので、私は「国宝・重要文化財をお集めになったらいかがでしょうか」と申し上げ、その後は話が弾んで気がつく二十分の約束が一時を超えていた。

数日後、秘書の方が来店され、「社長は高額品は買わないと言っていたのに、何であなたは集めるなどと言った」と責められた。しかし、数日して再び秘書氏は当店に来て、「社長の方針が変わって、国宝を購入することになった。ついでに、飯田さんとよく相談して進めると言われてやってきた」と言った。

無論、手元に国宝があるわけではない。その日から個人所有の国宝の所在を調べ始めた。しかも、数ある中から最も世に名の知れた正宗を探そうとした。

「正宗展」が開催されており、九鬼正宗も展示されていた。広井雄一先生にお預けして調査をお願いしていたところ、数日して根津美術館にいらる広井先生から電話が入った。「展示してある九鬼正宗を鞘に入れてみたら、ぴったりだ。これが本当の元の鞘に収まるんだね」と言われた。後日、柄も出てきて、国宝九鬼正宗は拵付きの短刀となったのである。

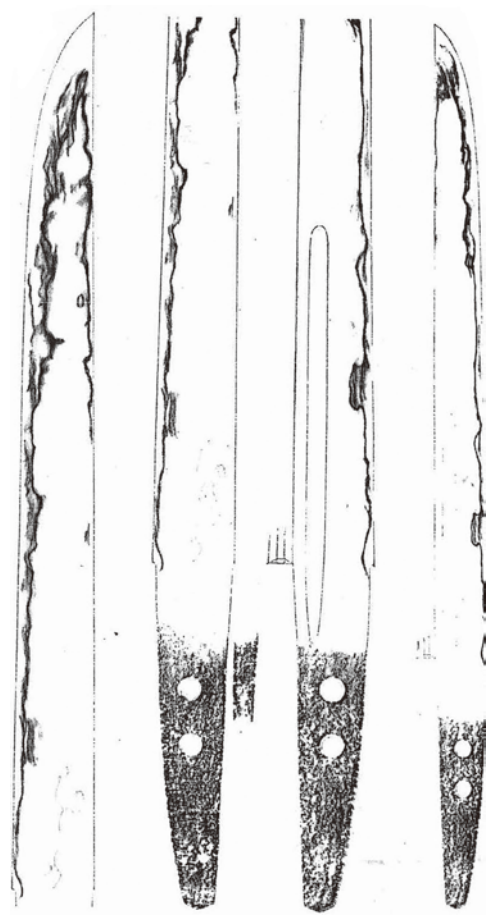
大な開発を構想していた。それを踏まえて林原健社長からは「バブルがはじけた今、あまり高額品を購入しては世間の目もあるのだから、備前物を中心に研究資料となるような中級品を数多く集めてみたい」とのお話があった。

私は思い切って「立派な美術館をお建てになるのであれば、名刀を集めるべきだと思います」と意見を述べ、「そのようなことでお力になれるなら、全力を尽くして

ご協力させていただきます」と申し上げた。

用件を単刀直入にお話しさせていただいたが、意外にも大変気さくな方で、「前向きに考えてみる」とのお返事も頂けた。

かくして、この年の九月二十七日、九鬼正宗は林原にお納めすることができたのである。これが縁となり、松平様(私は「殿」と呼んでいる)とは今日まで親しくお付き合いさせていただいている。その間に、こんなこともあった。ご自宅に伺った折、松平様は「これは何だ」と私に聞かれた。それは柄のない短刀の鞘で、金梨子地に隅切葵紋の時絵が施されている。葵紋は通常、丸の中に葵の文字が絵が描かれるが、伊予西条のものには四角で、しかも隅切角になる。「寸法からして、これはひょっとすると九鬼正宗の鞘かもしれない」と申し上げたところ、「君に任せる」とおっしゃるので、お預かりして調べたところ、ちょうどその時、根津美術館で「正宗展」が開催されており、九鬼正宗も展示されていた。広井雄一先生にお預けして調査をお願いしていたところ、数日して根津美術館にいらる広井先生から電話が入った。「展示してある九鬼正宗を鞘に入れてみたら、ぴったりだ。これが本当の元の鞘に収まるんだね」と言われた。後日、柄も出てきて、国宝九鬼正宗は拵付きの短刀となったのである。



九鬼正宗(拵形)と隅切葵紋散蒔絵鞘

## 「登録証問題」を考える 18

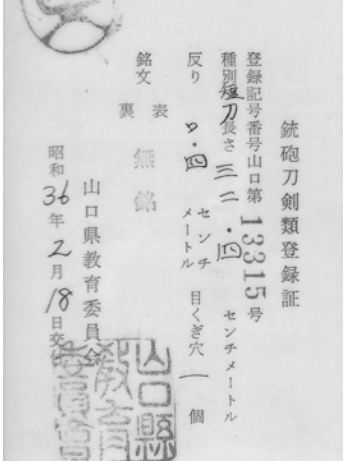
### 事例 28

今回は種別短刀、長さ三二・四cmでもこの登録証は有効であるとの事例についてお話しさせていただきます。

刀剣買取の際、登録証の内容と現物が一致しているかどうかはとても重要なことです。今回の刀剣の登録内容は添付画像(資料1)で示す通りで、種別短刀、長さ三二・四cmとなっていました。

まず山口県教育委員会へ登録証の内容確認を行いました。結果は、それで間違いありませんとの返答でした。

資料2 事務マニュアルの種別について



資料1 登録証の種別は「短刀」

ちなみに、現在は平造で三〇cm以上の刀剣は短刀ではなく脇指と表示されるのが一般的のようです。(登録証問題研究会)



# 甲冑の話題

(二社)日本甲冑武具研究保存会

## 日甲研の通常総会・見学会のご案内

このコーナーで、一般社団法人日本甲冑武具研究保存会(以下「日甲研」)が甲冑武具関係のさまざまなニュースを紹介させていただくことになりました。日甲研については、『刀剣界』第45号「大刀剣市2018へ参加して」で大枠紹介しましたので、今回は、通常総会に伴う見学会について紹介します。

当会では年に一度、六月初旬前後に全国の会員が一堂に会する通

常総会を開催します。会場は年ごとに変わるのですが、必ず近隣で

催されている甲冑武具の展示会を見学します。今年の総会は五月二十五日(土)～二十六日(日)に開催し、青梅市郷土博物館と武蔵御嶽神社を見学する予定です。

今回の見学の最大の目玉は、武蔵御嶽神社の国宝「赤糸威鎧」です。これは日本甲冑を代表する一領で、平安時代末期の武将畠山重忠奉納の伝承があります。



国宝「赤糸威鎧」復原模造 (青梅市郷土博物館所蔵)

赤糸威鎧は大鎧と呼ばれる形式の甲冑です。現在、大鎧は馬上での弓矢戦を主体とする騎馬武者用の甲冑

と考えられています。大鎧の各パーツの形状と当時の刀剣の知識により、平安時代末期の戦争の様子や、大鎧を着用することができた階層の人たちの文化的背景、価値観に思いを馳せることも楽しいことでしょう。

この赤糸威鎧は、江戸時代(享保年間)の修復、明治期の大修理により、製作当初の姿と若干異なっています。武蔵御嶽神社に展示されている国宝「赤糸威鎧」と青梅市郷土博物館に展示されている平安時代末期の姿を再現した復原模造品(当会副会長・西岡丈夫製作)を比較してみることが、大鎧に対する認識の歴史の変遷をたどることもできます。

青梅市郷土博物館では四月二十日(土)～六月十六日(日)、企画展「甲冑武具展」青梅ゆかりの品々を中心に開催されています。甲冑武具のほか、赤糸威鎧の徳川吉宗上覧に関する文書の展示等、非常に興味深い内容です。見学の際は、ぜひ当会会員を誘い、より深く甲冑武具に対する理解を深めていただけたらと思います。(一般社団法人日本甲冑武具研究保存会評議員・佐々木亮)

ショーさんの  
**健脚商売** 23

荒川区西尾久 編

今日の俺の行き先は荒川区西尾久。毎年、「大刀剣市」に慧星のように現れる尚佳洞の深津尚樹・佳子夫妻を訪ねる。

この尾久という町、昔俺の恩人が住んでいた。日本甲冑武具研究保存会の元常務理事・故本多議平氏の名を知る人も少なくなったが、この老人は気さくに甲冑談議をさせてくれた。また、八十歳を超えても都内を自転車で行き、その利便性を俺に教え、俺を自転車

趣味に導いてくれた人だ。そして、今日は甲冑に関する少し真面目な話。鎧の威材には紐(糸)のほか、革、織物(綾)があるが、なぜ紐が圧倒的に多いのかわかる？

革は、サイズ変化や湿気で固くなるのが難点。織物は裂ける、伸びにくい、伸びたらスポンの膝が出るように、元の形に戻らない。これに対し紐は、ある程度の張力から解放されれば元の形に戻る。

わかりにくかったら、アイビートリガーの先が「文字のバイアスのネクタイを想像してもらえればよい。この紐のストレッチ性が甲冑の威に採用される理由だ。

こんな談話をさせてくれる女性尚佳洞の「佳」の字に当たる深津佳子さんだ。ご主人の尚樹さんが刀剣、刀装具に取り組みかわら、組紐を道明で習い、拵の下拵を組むなどの二人三脚でやってきた。現在は国宝・日光助真の拵に付帯する下拵の復元に取り組んでいる。

もう一つこの話を訪ねたかった理由は、大塚自分勝手な話。俺の職場は移転に伴い現在、長い内装工



**トム岸田の  
フォト・リポート**

1月13日、全日本刀匠会関東支部の主催する「現代刀鑑賞会」が靖国神社遊就館講堂において開催された。川崎晶平・下島房宙・石田國壽・高橋恒巖・山下浩郎・森光廣各刀匠の作品10振が展示され、女性20名、男性7名の参加者は刀匠から作品の解説を聞きながら鑑賞を楽しんだ(上)。現代刀の入札鑑定も行われ、上位入賞者には吉原國家刀匠の小刀をはじめ、刀匠が自作した鉄の小品が贈られた(下)。

事中、通い先を失った俺は、毎日どうしてよいかわからない。マリナーズのイチロー選手は引退会見で「明日からもトレーニングをし、体を動かす」と言ったが、あんな大人物の真似は俺にはできない。リストラされたサラリーマンさんと同じように公園で時間をつぶすくらいが関の山。正直、自分を律することができなくなったらどうしよう、と焦りを感じ始めていた。

尚佳洞と言えば、店舗がないどころか、ホームページもなければ広告もほとんど見ない。こういう商人はどう仕事をし、自分を律しているかを知りたかったのだ。

尚樹氏の自分を高める自宅内ルーティーンは、刀剣の全身押形取りだった！ その緻密さは度肝を抜くほどで、刀文協の押形コンタールに出品したら一発で上位に入るだろう。それを顧客に送り、反応を待つという。しかもかなりの



組台を囲んで深津尚樹・佳子夫妻とともに

福隆美術工芸 (網取譲一) は左記に移転しました。〒104-0032 東京都中央区八丁堀三十一階 飯野ビル 一階 ☎03-6280-4987

**日本刀 販売 買取 委託**

**e-sword** (株) e-sword (イーソード) 平子誠之

〒350-1115 埼玉県川越市野田町 1-4-19 1F  
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407

<http://www.e-sword.jp>

日本刀 イーソード 検索

mail:info@e-sword.jp

名刀・珍品が氏の手を通過したことが、見せていただいたファイルからもわかる。

人脈と情熱があれば、職場に出かけるという生活のリズムが狂うことなど恐れるに足らないことをこの夫婦は教えてくれた。ありがとう、尚佳洞。ありがとう、イチロー外野手。明日から俺は公園で時間をつぶす。(網取譲一)

■尚佳洞 〒116-0011 東京都荒川区西尾久四二二二-1536 ☎03-3810-0549

矢上の千匹猿の鐔です。珍しいのは「宣徳金ヲ以作之」の添え銘です。宣徳金とは真鍮のこと、昔は金のように輝く高価な金属でした。

かつて数寄者の会で拝見しました。ごちそうで入手したのですか

製の器物一般を宣徳と呼びならわすようになった。銅と亜鉛とが基本となる後の真鍮とは厳密には異なり、これに不純金属が加わったもので純粋な真鍮とは風合いに微妙な差異がある。(銀座長州屋「刀剣用語解説集」より)

私が出会った珍品・逸品

久古堂 誌

千匹猿図鐔 銘 肥州矢上住光広 宣徳金ヲ以作之

縦七三mm 横七一mm

宣徳金(せんとかがね)は鐔などの素材として用いられる、真鍮とほぼ同質の組成を持つ金属の一種。中国の明代の宣徳年間(室町前期)に製作された真鍮製の器物に宣徳の年号が刻されたものが多かったことから、日本では真鍮地

の問いに、出品者が「サルお屋敷で」と答えられたので、一同大笑いになりました。



イベント・レポート

第十二回「お守り刀展覧会」販売催事

初の横浜高島屋展示で広がる新作刀の販売機会

三月六日から十二日まで横浜高島屋において、全日本刀匠会主催、第十三回「お守り刀展覧会」の展示販売会が開催された。

四〇センチ(一尺三寸二分)以下の刃長を基準にして各賞を受賞したお守り刀は、林原美術館・坂城町の展示館にて凱旋展示。その



月山貞伸刀匠のギャラリートーク

して今回、さらなる普及展示と、新作刀購入希望者に対応する貴重な機会を得た。

室町期の皆焼を見事に復元した文科科学大臣賞受賞・月山貞伸刀匠の平造り脇指をはじめ各受賞作品に、審査員の協賛作品や、お守り、幅広い刀剣ファンが楽しめる活気ある展示場となった。

会場の横浜高島屋は初めての展示となり、かつて刀剣販売に関わった役職者の理解により推し進められた。昨今の刀剣ブームに影響を受けてか、神奈川エリアの優良顧客はもちろん、店頭および外販販売者側の注目も高く、事前の刀剣基礎知識研修にも熱心な参加者が

が多く、刀剣販売の道は広がったと考えられる。

会期中、川崎晶平・月山貞伸両刀匠によるギャラリートークも聴講用椅子を追加するほど活況で、老若男女のお客さまが刀匠の熱意あふれる話に聞き入っていた。

ところでお守り刀と言うと、皇室では八寸五分であるが、同展では出品規程に従い、寸伸び短刀や大ぶりの腰刀調のものもあり、賑やかで楽しめる。

ただ顧客は、親族へのプレゼントなどの用途に応じて、やや小ぶりの短刀を探している方が多いように見受けられた。全ての作品が八寸五分では、刀剣ファンとしては楽しみに欠けるかもしれない

古河歴史博物館「華麗なる日本刀 備前刀の伝統 鎌倉時代から現代まで」

現代に至る備前刀の伝統を俯瞰するスケールが注目集める

三月十六日から五月六日まで、茨城県古河市の古河歴史博物館において、「華麗なる日本刀 備前刀の伝統 鎌倉時代から現代まで」を開催した。

これまでも「古河藩の武具その美とはたらき」「よみがえるGHQ接収刀剣『赤羽刀』と日本刀名品展」「堀川国廣とその一門『赤羽刀』と日本刀名品展」に取り組んできた当館であるが、今回は、古河藩の刀工泰龍斎宗寛やその師岡山宗次らが、備前伝の造刀をしてきたことちなみ、その伝統を俯瞰するものとして、現代に至る刀工と作品を紹介したものである。

タイトルには鎌倉時代からであるが、実際に展示されているものは、平安末期の助包に始まり、続いて鎌倉期では安則・吉房・光忠・景秀・長光・景光・近景、南

北朝期では兼光・倫光・長義・盛景・守久、室町期では宗光・勝光・祐定、江戸期で直胤・宗次・正義・正守・宗寛らを出品。加えて現代刀匠として、高松宮記念賞を受賞された久保善博氏の太刀も展示された。

重要美術品二点を含む二十六点の刀は、そのほとんどが個人蔵であり、ふだんから一堂に会する機会が少ないものが展覧されるものとして、多くの方々から称賛の声を頂いた。とりわけ、黒田家伝来の長光や、在銘の長義に注目が集まった。

しかしながら課題もある。当館の展示ケースは本来、書画を展示するために作られたウォールケースのため、展示位置が低く、照明が当たりづらいのがいささか難点でもあった。

今回の展覧会は、若い女性の間

が多く、刀剣販売の道は広がったと考えられる。会期中、川崎晶平・月山貞伸両刀匠によるギャラリートークも聴講用椅子を追加するほど活況で、老若男女のお客さまが刀匠の熱意あふれる話に聞き入っていた。ところでお守り刀と言うと、皇室では八寸五分であるが、同展では出品規程に従い、寸伸び短刀や大ぶりの腰刀調のものもあり、賑やかで楽しめる。ただ顧客は、親族へのプレゼントなどの用途に応じて、やや小ぶりの短刀を探している方が多いように見受けられた。全ての作品が八寸五分では、刀剣ファンとしては楽しみに欠けるかもしれない



幅広い層の来場者があった「備前刀の伝統」展

「伝承日本の刀剣展」が阪急うめだにて開催される

が、例えば八寸前後の作品に加点があり、上位受賞を狙いやすくなることも、この展覧会の意義の一つ

つかもれない。さて、その初催事の成績はいかがであったか……。担当者からお

礼と隔年開催の話も頂いたようだ。成功であったと言えよう。(伊波賢一)



四月十七日から二十二日まで六日間、大阪・梅田の阪急うめだ本店九階うめだギャラリーにて「伝承日本の刀剣展」平安から現代まで」が開催された。

平安時代から近代までの刀が展示のみで三十三振、そして現代の川崎晶平・明

本展は六日間の開催であったが二万七千人以上のお客さまにお越しいただき、入場無料とはいえイベント側も驚きの集客になった。今後、全国のデパートで開催されていくとより刀剣が身近なものとなり、ファンが増えていくと思う。本展を開催するに当たりご協力いただいた多くの皆さまに感謝申し上げます。(岩本典久)

トでは、小中学生親子講座として「日本刀を持ってみよう」、記念講演会では無鑑査刀匠久保善博氏を招いて「古名刀の再現への挑戦 科学する刀鍛冶」が開催され、久保刀匠のお話に満場の聴衆たちは耳を傾けていた。(古河歴史博物館・立石尚之)

鍛えを川崎さん、焼入れを明珍さん、彫りを月山さんが担当し、まさに夢の共演で作り上げられた刀。古くから合作の刀はあるが、それぞれ師匠を持つコラボはなかったのではないだろうか。出来も抜群に良く、百年後、二百年後の評価が楽しみな刀だ。名刀誕生！この現場に立ち会えたことが嬉しい。



若い世代の姿も目立った「伝承日本の刀剣展」

NEWS & TOPICS

関鍛冶伝承館で菊紋入り刀を展示

関鍛冶伝承館(岐阜県関市南春日町九一) 〇五七五二一三三(八二五)で企画展「朝廷と菊紋と関の刀工」が開かれている。天皇家の紋章である菊紋が刻まれた刀などを展示。皇位継承など天皇への関心が高まっている中、朝廷と関鍛冶とのつながりにも興味を持ってもらおうと企画した。五月二十七日まで。

た刀剣二十四振と古文書など資料八点。

代表 田中勝憲

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定 (株)城南堂古美術店 〒1153-10051 東京都目黒区上目黒四-1-110 TEL 03-3710-6776 FAX 03-3710-6777

アオバ企画(株) 高橋一

〒130-0012 墨田区大平四-1-19 TEL 03-3621-1111 FAX 03-3621-1111 メール aobakk@pb3.so-net.ne.jp

刀剣・小道具・甲冑武具 飯田高遠堂 代表取締役 飯田慶雄 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33 TEL 03-3951-3312 FAX 03-3951-3615 http://www.iidakoendo.com

(株)美術刀剣松本 富夫 義行 〒278-0043 千葉県野田市清水199-1 TEL 04-7122-1122 FAX 04-7122-1950 www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑 日本の伝統文化を彩る JAPAN SWORD CO., LTD. (株)日本刀剣 伊波賢一 Ken-ichi Inami 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1 TEL 03-3434-4321 FAX 03-3434-4324

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂 〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16 岩月ビル2階 (株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏 TEL 03-3289-1366 FAX 03-3289-1367 http://www.taibundo.com



# 刀 剣 界

## NEWS & TOPICS

### 製鉄の歴史が変わる?! アナトリアで最古級の遺物発見

人類史上最大の発明の一つとされる製鉄は、古代オリエントで栄えたヒッタイト帝国(紀元前一二〇〇〜同一四〇〇年)が技術を独占し、軍事的優位を得たとされる。帝国の滅亡とともにそれは周辺諸国に急速に普及し、青銅器時代から鉄器時代へ転換するきっかけとなった。

その歴史が変わるかもしれない大発見があった。見つかったのは、酸化鉄を多く含む直径約三センチの丸みを帯びた塊。ヒッタイト帝国の中心部に位置するトルコのカマン・カレホユレック遺跡で一九八六年から調査を続けている公益財団法人中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所(大村幸弘所長)が、昨年九月、紀元前二二五〇〜同二五〇〇年の地層から発見した。

世界最先端の微細加工や精密分析の技術を活用して調べたところ、遺物は鉄隕石とは組成が異なり、鉄鉱石を加工



カマン・カレホユレック遺跡 (写真提供/アナトリア考古学研究所)

## NEWS & TOPICS

### 国交百周年のポーランドで 瀬戸内市が備前刀を展示

岡山県瀬戸内市は、日本・ポーランドの国交百周年記念事業に協力し、同国で十一月に開かれる「備前長船日本刀展覧会」に日本刀を出展する。

同展は、ポーランド南部のクラクフ市にある日本美術技術博物館マンガ館が十一月二十三日から来年三月一日までの百日間にわたって開催する。ここに瀬戸内市の備前長船刀剣博物館が収蔵する備前刀約三十振と現代刀工の作品約五振などを出品。さらに、刀工による作刀や手入れの実演、日本刀の歴史、武士道精神などの講演会

も計画されている。

関西・大阪21世紀協会は「これほど大量の日本刀の海外持ち出しは例を見ない。日本・ポーランドの国交百周年記念事業にふさわしい」として同展を日本万国博覧会記念基金の19年度重点助成事業に選んだ。

ポーランドでは日本刀への関心が高く、博物館や愛好家がおよそ二千振を所蔵するという。武久頭也市長は「展覧会で日本刀への関心をさらに高めたい。市への来訪者増加にもつながれば」と展覧会の効果に期待を寄せている。

## NEWS & TOPICS

### 二・二六事件将校の遺品が 鈴木貫太郎記念館に寄贈される

昭和十一年に陸軍青年将校らがクーデターを起した二・二六事件で首謀者の一人とされた安藤輝三大尉の遺族が、事件当日に着用していたとされる外套や軍刀などの遺品二十点を、鈴木貫太郎記念館に寄贈した。

鈴木は昭和二十年の終戦時の首相で、当時は侍従長兼枢密顧問官。同事件で重傷を負ったが、自伝では安藤について「惜しいというよりは、むしろかわいいう青年将校」と記述している。鈴木は遺族も「襲撃は立場の違いから生じた」と了承し、受け入れたという。



鈴木貫太郎記念館

## NEWS & TOPICS

### 刀剣女子で復興、 髭切・膝丸の聖地が燃えている！

京都府八幡市の小さな神社に、昨年から突然、時に百人を超える行列ができるようになった。名刀ゆかりの場所と紹介したツイッターがきっかけで、全国から刀剣女子が続々と訪れているという。

京阪電鉄八幡市駅から南へ約五百メートルの相槌神社がそれ。石清水八幡宮がある男山の麓にある。社伝によると、平安時代の安綱が境内の井戸「山ノ井」の水を使い、「髭切」と「膝丸」を鍛えたといわれる。

宮司の高月清子さんは、先々代の宮司に請われて十年ほど前から社務を手伝ってきた。昨年二月に宮司になったが、本殿や社務所は老朽化が進んでいた。そこで、知人らに声をかけてボランティアのスタッフによる「復興プロジェクト」を立ち上げた。

神社の由来を紹介するホームページをつくるなどしている。六月ごろからポツリポツリと参拝者が訪れ始めた。後にスタッフとなる参拝者の女性が、ツイッターで「名刀『髭切』『膝丸』をお道りに

なってきた場所なのだそうです」とつぶやいた。月二回の月次祭で御朱印がもらえることも紹介した。すると、翌九月一日の月次祭に百人以上が訪れた。しかも、大半が女性。「刀剣乱舞」に登場するキャラクターにゆかりのある場所として、相槌神社を取り上げられるようになり、刀剣女子たちの「聖地巡礼」の対象になったのだ。

今年のはじめ、献灯台を新しくするためにクラウドファンディングを始めると、五時間で目標額の七十四万円が集まった。井戸の改修費などを追加して、目標を二百六十万円に増額したところ、最終的に百七十一人から四百万円以上の支援が寄せられたという。

高月さんは「神職の仕事は神様と人をつないで助けることだと考えているが、今は大変多くの人に支えられて、とても感謝している。本殿や社務所を少しでも早く新しくできた」と話している。

相槌神社 0614-8091  
京都府八幡市八幡平台10  
<https://atsuchi-jinja.or.jp/>

## NEWS & TOPICS

### 江戸時代の鉄砲鍛冶は年商三億円

堺市に所在する井上家の鉄砲鍛冶屋敷には、江戸時代以来の鉄砲の生産現場が残り、堺市の有形文化財(建造物)に指定されている。堺市と関西大学は共同研究調査として、平成二十七年から四年間にわたり、鉄砲鍛冶屋敷の古文書調査を実施してきたが、その成果の一部をこのほど報告書として刊行した。

井上家の資料群は江戸時代から明治時代にわたるもので、総点数は二万点を超え、鉄砲の注文から代金の引き渡しに至る江戸時代の鉄砲ビジネスの仕組みが初めて明らかになるなど、日本の鉄砲生産の歴史を書き換える貴重な成果を得ることができたという。

慶応二年(一八六六)には鉄砲四六九丁を販売し、売り上げは三〇二九両(約三億円相当)だったことが判明した。また、日本最大の軍事拠点だった大坂城で鉄砲のメンテナンスに関わっていたこともわかった。



堺市に寄付された井上家鉄砲鍛冶屋敷

## NEWS & TOPICS

### 地方紙の「刀剣乱舞ONLINE」広告に熱狂！

「刀剣乱舞ONLINE」の全面広告が四月二日付の『高知新聞』朝刊に掲載される……。前夜、同ゲームの運営会社DMMゲームスがツイッターで発信したところ、全国のファンの間で大騒ぎに。

「高知へ向かう決断をして新幹線に乗っている」「高知新聞」県外民からでも購入できるのか。ツイッターには興奮した書き込みが相次ぎ、当日は高知新聞社担当部署の電話が鳴りつ放しだったという。

今回の広告は、ゲーム内で展開するイベントの告知。坂本龍馬が愛用した陸奥守吉行をイメージしたキャラクターが全面に描かれたデザインとなっている。

運営会社によると、イベントの舞台設定は高知だということ。そこで

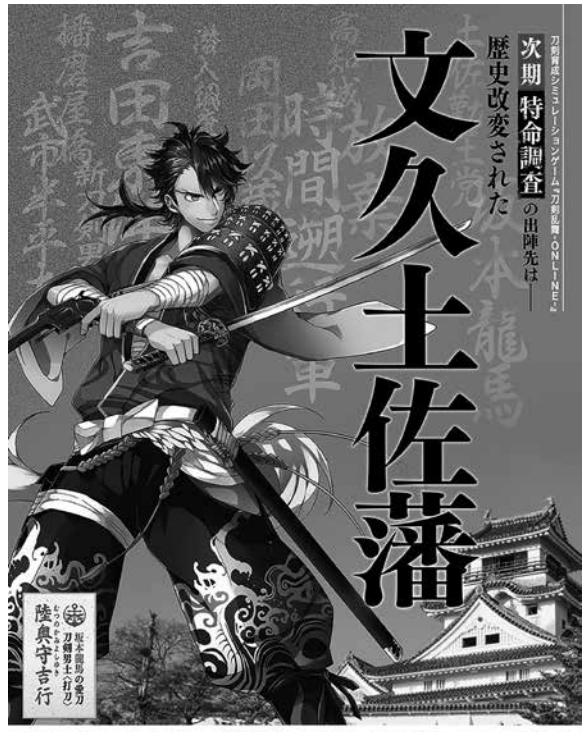
が相次ぎ、当日は高知新聞社担当部署の電話が鳴りつ放しだったという。

今回の広告は、ゲーム内で展開するイベントの告知。坂本龍馬が愛用した陸奥守吉行をイメージしたキャラクターが全面に描かれたデザインとなっている。

イベントに関する初めての情報は中央メディアやネットではなく、地元メディアで出すことを企画。「高知新聞」に広告掲載となった。「刀剣乱舞」の紙面がマジで欲しい「明日の『高知新聞』めっちゃ楽しみ」などの書き込みがあふれ、ツイッターのトレンド(登場頻度が高く話題性の高い言葉)に「高知新聞」が入る過熱ぶりだった。

そして当日は朝から、朝刊を求める電話がひっきりなしに高知新聞社にかかった。販売担当の部署

では社員十四人が対応。約八百件の注文があり、郵送用に準備していた新聞は午後二時ごろには売り切れとなった。ツイッターには「ようやく電話がつながった。全面広告の新聞申し込み」などの書き込みが見られた。一月以上経過しても余熱は続き、掲載紙はネットオークションでも引っぱりだことなっている。



次期特命調査の出陣先は歴史改変された  
**文久土佐藩**  
新イベント「特命調査文久土佐藩」鋭意開発中!  
©2015-2019 DMM GAMES/Nitroplus



刀剣会紹介

新発足の岡山刀剣会が初会開く

新元号が発表された四月一日、岡山刀剣会の初会がJR岡山駅近くの後楽ホテルで開催された。長く続いた一文字刀剣会と同じ会場である。

会主は日本刀鑑賞を営む廣谷大輔氏。氏は既に九州・四国で刀剣の交換会、岡山で甲冑の交換会を運営するが、今回の新たな交換会開催の意図を伺った。

「岡山で四十数年続いた一文字刀剣会が昨年の十月、京都に移転、中国地方を中心とする業者は近隣に市場がなくなり不便で大変困っていました。二十日に岡山で市場を運営していますが、甲冑専門とすることで代わりにはならず、既に市場を何カ所もやってくる中で大

変たろうが、岡山に市場を設立してほしいと多くの方から要望されました。これほど需要があるのに期待に応えないのは、業界の低迷につながると思い、市場を開設する運びになりました。」

当日、東は関東から西は九州まで、六十名を超す業者が集まり、売り物の少ない昨今の市場事情にもかかわらず、足の踏み場もないほどの品物が集まった。

発句は廣谷氏、競りは新堀徹氏のおなじみのコンビで十時に開始。午後八時までは、伝江や繁慶などの高額商品が取引され、途中、令和の号外が配られたりと、会場はお祝いムードのうちに幕を閉じた。(大平将広)

日本刀の美と技と歴史を完全網羅した  
ビジュアル大図鑑創刊！ディアゴスティーニから

美しさと強靱さを併せ持ち、高い精神性を宿す日本刀。週刊『日本刀』は、その日本刀の魅力を示すところなく伝えるビジュアル大図鑑大図鑑です。

本シリーズでは国宝・重要文化財を中心とした名刀を毎号一振、原寸大カラー写真で掲載。しかも、化粧研ぎの下に秘められた刀の素顔とも言える「刃文」を特殊撮影で浮かび上がらせ、今まで肉眼では確認できなかった日本刀本来の「刃文美」を隅々まで存分に堪能できます。

さらには、名刀の由来や背景、刀工や所有者との相關図、書籍やネットではあまり取り上げられていない「拵」を中心とした日本刀の美術工芸品としての側面にもフォーカスしています。

また、刀にまつわる戦国武将や偉人たちの知られざるエピソード、刀匠の技や伝説、現代の日本刀カルチャー、名刀・拵のデータファイルなども掲載しており、読み応えたっぷり。

わが国刀剣界を牽引する四団体(公益財団法人日本美術刀剣保存協会・公益財団法人日本刀文化振興協会・全日本刀匠会・全国刀剣商業協同組合)と専門家の協力により、歴史的な資料や専門書の内容をわかりやすい文章で解説。美麗なカラー写真を中心に、イラストや拡大写真も掲載しており、まるで学芸員のガイドのように日本刀について深く理解することができます。

本シリーズは全二〇一冊を予定。二千振以上の名刀の魅力を余



すところなく紹介していきます。五月二十八日発売の創刊号では、徳川家康が所持した異色の名刀「村正」を特集。「長光」「正宗」「虎徹」「石切丸」と、名だたる名刀を順次掲載していく予定です。

また、創刊号では「刀剣乱舞ONLINE」プロデューサーの小坂崇氣氏、第二号では「新世紀エヴァンゲリオン」に登場するロングノースの槍を製作した現代刀工のインタビューを掲載するなど、日本刀と現代を結ぶ特別インタビューも注目です。

徳川美術館 〒461-0023 名古屋市中区徳川町1017 ☎052-935-6262 https://www.tokugawa-art-museum.jp/

特別展「徳川将軍ゆかりの名刀」

尾張徳川家には徳川家康の遺品「駿府御分物」を含む家康所持の刀剣のほか、歴代将軍から下賜された刀剣114振が遺されており、将軍家と尾張家との関係の深さを物語っています。伝来の経緯も、御成下賜、形見分け、男子誕生祝、元服祝、将軍の一字拝領(偏諱下賜)祝、家督相続祝、始礼祝、初参勤交代祝など多岐にわたり、御三家における刀剣を通じた武家儀礼の様相を知ることができます。

本展では将軍家ゆかりの名刀を展示替え、および第1展示室での展示を含めて全点公開すると同時に、大名家にとっての刀剣授受の意義を探ります。会期：4月14日(日)～6月2日(日)



江戸東京博物館 〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1 ☎03-3626-9974 https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/

特別展「江戸の街道をゆく～将軍と姫君の旅路～」

江戸時代、幕府によって整備された街道には、さまざまな人や行列が往来し、活気にあふれていました。中でも将軍や姫君たちのそれは、長大で沿道の人々を圧倒しました。将軍は上洛や日光東照宮への参詣(日光社参)で諸大名を引き連れ、自らの権威を誇示しました。また、将軍家の御台所となる姫君は、将軍との婚礼が決まると、莫大な費用をかけて製作された婚礼道具などを携え、主に中山道を通って京都から江戸へ下向しました。

本展覧会では、将軍の上洛と日光社参、姫君たちの江戸下向に関する資料を通して、「江戸の街道」における旅路をたどります。風景や道の姿は変わっても、先人たちが通った街道は現代の私たちにとてもなじみの深い道となっています。過去から現在まで続く街道の歴史をご覧いただけましたら幸いです。会期：4月27日(土)～6月16日(日)



米沢市上杉博物館 〒992-0052 山形県米沢市丸の内1-2-1 ☎0238-26-8001 https://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp/top.htm

特別展「上杉家 葵の姫のものがたり—徳川家三姉妹の守刀—」

江戸時代の米沢藩主上杉家の縁組および華族となった近代上杉家の婚姻を紹介します。米沢藩主から華族制度がなくなるまでの上杉家当主は15人、正室は武田・四辻・鍋島・保科・紀州徳川・黒田・山内・尾州徳川・浅野・讃岐松平・細川・高須松平・大給松平・鷹司・徳川宗家などから迎えました。同じ家から何代かにわたる婚姻や、正室の死去に伴って複数の夫人がいる方もあります。

上杉家16代当主上杉隆憲夫人敏子は、徳川宗家徳川家正の二女でした。上杉家に嫁ぐ際、守り刀として「短刀 国光」を贈られました。この度の展覧会では、「葵の姫」であった徳川家出身の女性を中心に紹介します。敏子の長姉豊子は会津松平家に、妹順子は高遠保科家に嫁ぐ際、同じように守り刀を持参しました。徳川宗家に生まれた三姉妹の一堂に会した守り刀や古写真などで、近代華族の婚礼を知る機会とします。

婚姻の意図や婚姻がもたらしたもの、また嫁いだ姫の生涯も謎に満ちていますが、華麗な婚礼調度や資料の数々に姫君の物語を紡いでいきます。会期：4月20日(土)～6月9日(日)



嫁入り道具箱の中に入る美平はじめ、近代徳川家から嫁ぐ葵紋を持つ三姉妹の守り刀、備前景光(会津松平家)、山城国光(上杉家)、来国俊(保科家)を豪華に展示

カシオから日本刀をテーマに新作Gショック

カシオ計算機は主力の耐衝撃ウォッチ「Gショック」の最上位シリーズ「MR-G」の新製品として、日本刀をテーマにした「MRG-G2000GA」を6月に発売する。月山刀匠による仕上げを施し、日本古来の強さと美しさを表現した。世界限定300本。

ベルトは刀身の持ち手部分である茎をイメージ。柄が刀身から抜け落ちないように滑り止めとして付けられる鑢目、刃の部分に表れる独特の沸、切先といった日本刀を象徴する要素をモチーフに取り込んだ。ベルトの第2駒には月山一門の座右の銘「鍛刀一筋」を意味する「鍛」の銘を施した。予価80万円(税別)。





## 催事情報

### ■京王プラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1 ☎03-3344-0111  
https://www.keioplaza.co.jp/

#### 魂を映す武装の美学 匠の伝承

京王プラザホテルは日本の刀文化、鎧兜の工芸美を紹介する文化展示「魂を映す武装の美学 匠の伝承」を無料で開催します。世界100カ国以上からお客さまを迎える東京を代表するホテルとして、力を入れている日本文化発信の一環として実施するものです。南北朝時代の古刀を含む貴重な刀剣や鎧兜、芸術とも言える鐔や刀装具などを展示するほか、6月6日(休)には現代にその技を引き継ぐ河内一平刀匠や、刀剣ブームを生んだ漫画家かまたきみこ氏を招いた特別午餐会も開催します。



この度は南北朝から平成まで650年の歴史の中で作られた合計7振の刀身を展示し、時代ごとの様式やさまざまな変化を遂げてきた特徴をご紹介します。あらためて時間をかけご覧いただくことで、焼入れの技術によって生じる刃文や、細部に装飾を施す目貫や鐔など、随所に散りばめられた日本人の美意識を見て取ることができます。

また刀剣そのものだけでなく、携帯するための外装でもあり、彫金や漆芸など多様な技術が投じられた刀装具も合わせて展示し、日本の伝統工芸の素晴らしさをお伝えします。

武将にとって精神の支柱であった日本刀の歴史や、現代にも伝承される刀匠の技をご紹介します。

協力：公益財団法人日本刀文化振興協会ほか

会期：4月25日(休)～6月27日(休)

会場：3階アートロビー

### ■東京富士美術館

〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1 ☎042-691-4511  
https://www.fujibi.or.jp/

#### サムライ・ダンディズム 刀と印籠—武士のこだわり

一千有余年の伝統を持つ世界に誇る日本独自の美—日本刀。もともとは武器として実用品であった刀は、同時に古来から鑑賞・収集の対象としても珍重され伝承されてきたという希少な歴史を持つ美術品でもあります。そして刀と同様に、当初は実用品として江戸時代初期までに誕生していたと思われる印籠も、比較的早い段階から愛玩・贈答品として主に名家・名工によって発展を遂げ、江戸時代を通じた武家文化の象徴的なアイテムとなりました。

歴史ドラマなどの影響もあり、広く知られている一方で、その実態については必ずしもつまびらかではありません。

武士が愛で、大切にされた刀と印籠、そこには匠の技と心が込められ、贅を尽くしたこだわりの美が輝いています。日本刀20振と印籠235点に刀装他を加えた総数約300点を展示する本展では、武士が身につけ、愛玩した美をお楽しみいただくとともに、知られざる印籠の魅力をその発達の歴史をたどりながらご紹介します。日本刀の持つ魅力と同様に、手のひらに包まれる美と技に魅入られた武士たちの眼差しを体験していただければ幸いです。

会期：4月2日(火)～6月30日(日)



### ■備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966 ☎0869-66-7767  
http://www.city.setouchi.lg.jp/token/

#### 日本刀解体新書Ⅱ

日本刀を鑑賞するに当たって、日本刀のどこを見ればよいのか、初心者の方にはわかりにくい部分があります。しかし、日本刀の見るポイントは決まっています。前年度は、日本刀の鑑賞ポイントの1つである「姿」について展示を行いました。

今回の展示では、鑑賞ポイントの1つである「地鉄」と「刃文」に重きを置く展示を行います。日本刀の特徴がわかる部分が「地鉄」と「刃文」ですが、この部分を理解することは、初心者の方にはとても難しいようです。そこで、今回の展示ではポイントがわかりやすいように展示を行うことで、日本刀鑑賞に慣れていただきます。

会期：4月27日(土)～7月7日(日)

### ■佐賀県立博物館

〒840-0041 佐賀市城内1-15-23 ☎0952-24-3947  
https://saga-museum.jp/museum/

#### 最上大業物 忠吉と肥前刀

佐賀藩主鍋島家の御刀鍛冶(御用刀工)の忠吉とその一門は、江戸時代を通じて100人を超える刀工を輩出し、隆盛を極めました。肥前刀と呼ばれるその作品は、江戸時代の専門書では「最上大業物」と最高級の評価を受けるものであり、将軍家への贈答用として用いられました。

この展示会は、初代から9代までの歴代の忠吉とその一門の作品を展示するものです。併せて、鎌倉時代から室町時代の名刀を、佐賀ゆかりの作品を中心に紹介します。

会期：4月12日(金)～7月15日(月)



会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。

### ■刀剣博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網1-12-9 ☎03-6284-1000  
https://www.touken.or.jp/museum/

#### 日本刀の見方 パートI 姿

この度の展示では、日本刀鑑賞の基礎たる点にスポットを当てることにしました。近年、増えている若い刀剣愛好家からの声もあり、日本刀はどのように見ればよいのか、どこが見所なのかをわかりやすく示し、日本刀の魅力を存分に楽しんでいただきます。

そこで「日本刀の見方」と題し、「姿」「地鉄」「刃文」それぞれに焦点を当て、全3回に分けて日本刀鑑賞のポイントを解説するシリーズ展示を企画しました。

本展示会では、(公財)日本美術刀剣保存協会の所蔵品を中心に各時代の名刀や、彩りを添える刀装・刀装具を展示します。初心者も玄人もともに肩を並べて心置きなく、名品をご賞覧ください。

会期：4月13日(土)～6月30日(日)



### ■立花家史料館

〒832-0069 福岡県柳川市新外町1 (立花氏庭園内) ☎0944-77-7888  
http://www.tachibana-museum.jp/

#### 特集展示「刀を見る、伝来を知る 柳川藩主立花家伝来の刀剣」

初代藩主・立花宗茂が元和6年(1620)に柳川に再封されて以来、明治維新まで代々柳川藩11万石を治めてきた立花家。江戸時代の立花家は、大名の家格に相応しい刀剣を多数所持していましたが、現在、立花家史料館が所蔵する伝来の刀剣は、20口にも及びません。しかし、これらはどれも立花家にとって最も重要な意味を持つ刀剣類であり、それぞれの刀にまつわる逸話には、立花家の歴史が映し出されています。

本展では、特に近世大名立花家初代・戸次道雪(鑑連)と、その跡を継いだ宗茂にゆかりの深い刀剣を中心に、柳川藩主立花家に伝来した刀剣をご紹介します。名刀と賞される刀剣の機能美を、立花家の歴史と併せてお楽しみください。

会期：4月12日(金)～7月15日(月)



### ■真田宝物館

〒381-1231 長野県長野市松代町松代4-1 ☎026-278-2801  
https://www.sanadahoumotsukan.com/

#### 令和元年特別展「真田×刀」

本来、武器として生み出された刀剣は、神の化身や依りどころとして神聖視され、公家・武家を問わず宝物としても扱われてきました。江戸時代に入り戦がなくなると、近世大名にとって刀剣は身分と家格を示す大切な道具となり、大名間の贈答品の代表に用いられるなど、大名道具の中でも最も高い格式が与えられました。

真田家が所有した刀剣には、表道具として管理された刀剣と、実用品の武具として管理された刀剣の、二つの種類があったことがわかっています。本展では、表道具として見なされた刀剣にスポットを当て、戦国期の真田家とともに渡り歩いた古刀をはじめ、里帰りした松代藩真田家旧蔵の刀剣や、近年の刀剣台帳の調査で明らかになりつつある、松代藩の刀剣管理体制について併せてご紹介します。

会期：6月29日(土)～9月23日(月・祝)



### ■最上義光歴史館

〒990-0046 山形市大手町1-53 ☎023-625-7101  
http://mogamiyoshiaki.jp/?p=top

#### 鐵 [kurogane] の美2019～武士 [mononofu] と日本刀～

当館収蔵品(寄託資料も含む)の中から武士との関わりがわかる刀剣資料10振を公開しています。この度は、最上家ゆかりの刀剣のほか、福岡藩黒田家伝来の短刀や兼松吉政と平野長泰がそれぞれ所持した太刀を展示。そして幕末の志士・坂本龍馬ゆかりの刀(!?)等、付属の拵と来歴が記された白鞘も同時に公開しています!!

会期：4月3日(水)～7月17日(水)

### ■石川県立美術館 前田育徳会尊経閣文庫分館

〒920-0963 石川県金沢市出羽町2-1 ☎076-231-7580  
http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/jpc/about/

#### 前田家の刀剣・甲冑・陣羽織

今回の特集は5月の連休や、加賀藩祖・前田利家が金沢城に入城した時期に合わせて毎年6月に開催される「百万石まつり」を念頭に、全国から来館されるお客さまに加賀藩主前田家の「武」の側面の一部をお楽しみいただけるよう、歴代藩主所用の甲冑・陣羽織を中心に展示します。また前田家ゆかりの刀剣として、加賀藩三代藩主・前田利常が孫の五代藩主・綱紀の武運長久を祈願する目的で、高岡の瑞龍寺に奉納した「瑞龍寺奉納刀」のうち、貴重な伝存品である藤原長次による1口を併せて展示します。

会期：4月20日(土)～6月9日(日)

